

ふくしま心のケアセンター
地域アルコール対応力強化事業
(アルコールプロジェクト)
相双地域におけるモデル事業
令和6年度 報告書

相馬広域こころのケアセンターなごみ
(ふくしま心のケアセンター浜通り北方部センター)

目 次

I. 相双地域におけるモデル事業の概要・・・・・・・・・・	1
1. 本事業の枠組み	
2. 本事業のメンバー	
3. ミーティングの開催	
II. 令和6年度の実施内容・・・・・・・・・・	4
1. 地域住民への啓発活動の促進	
1) アルコール関連予防啓発動画の作製	
2) アルコール関連問題予防啓発活動	
3) 福島県立相馬高等学校での健康講話	
2. 「男性のつどい」の活動強化	
1) 南相馬市での活動内容	
2) 飯舘村での活動内容	
3) 浪江町での活動内容	
3. 保健・医療・福祉関係者の支援力の強化	
4. 地域連携の強化	
1) 地域でのアルコール健康問題に関するネットワークづくり	
2) 相馬うぐいす断酒会の開催支援	
3) アルコール家族教室の支援	
5. 本事業に関する活動のまとめと広報活動	
1) 教材動画「被災地の依存症者への関わりから読み解く～生きることを支えるヒント～」の協働制作	
2) 県民健康リテラシー推進事業「飲酒」動画制作への協力	
3) アルコール関連問題の支援終了者の調査	
4) 福島こころのケアセンター主催復興のための市民公開講座「回復からのメッセージ」の開催協力	
III. 今年度の振り返りと次年度に向けて・・・・・・・・・・	10

I. 相双地域におけるモデル事業の概要

1. 本事業の枠組み (図 1)

本事業は、平成 26 年度より実施されている「ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業」の一環として、相双地域において展開しているモデル事業である。初年度から、図 1 のような枠組みで展開してきた。なお、本事業は一般社団法人 福島県精神保健福祉協会より業務委託を受けて実施している。

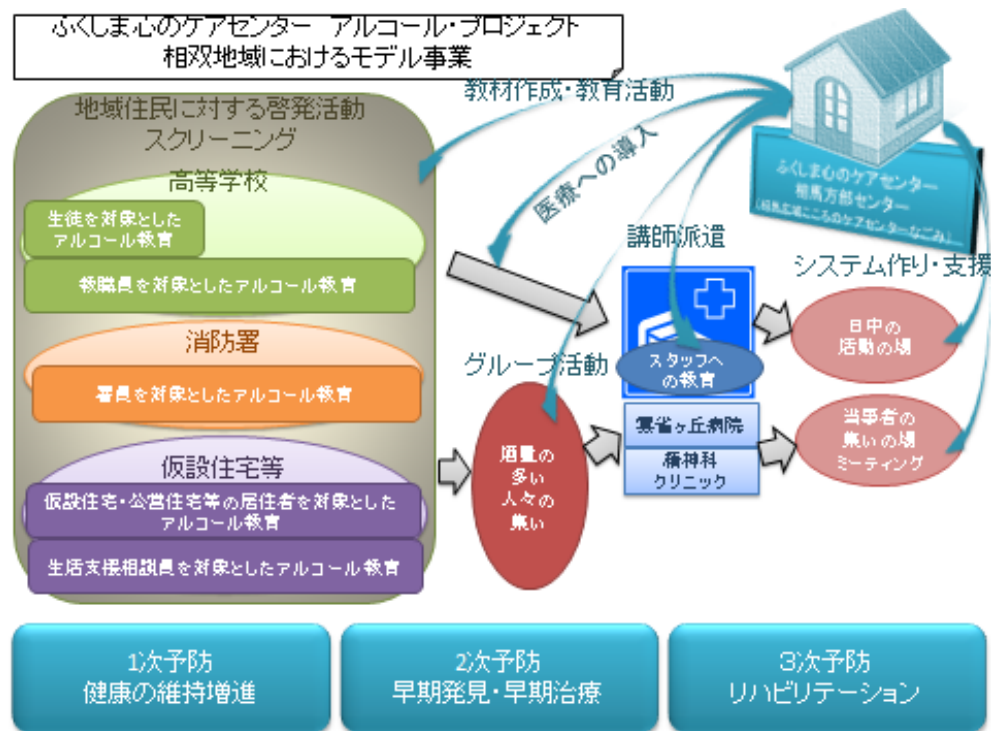


図 1 地域アルコール対応強化事業相双地域におけるモデル事業の枠組み
(平成 26 年度～平成 29 年度)

モデル事業の開始から 4 年が経過し、実施内容やその結果を振り返り「この地域において求められているものは何か」を再確認した。そして平成 30 年度より、「やってみる！出向いていく！つないでいく！」をスローガンに掲げ①地域住民への啓発活動の促進②「男性のつどい」の活動強化③保健・医療・福祉関係者の支援力の強化④地域連携の強化、という 4 つの柱から活動を計画し、実施していくこととした (図 2)。

図 2 地域アルコール対応強化事業相双地域におけるモデル事業のスローガン
(平成 30 年度～)

アルコール・プロジェクト相双チームのスローガン
「やってみる！ 出向いていく！ つないでいく！」

1. 地域住民への啓発活動の促進
2. 「男性のつどい」の活動強化
3. 保健・医療・福祉関係者の支援力の強化
4. 地域連携の強化

2. 本事業のメンバー

令和 6 年度は、下記のメンバーにて活動を行なった。

- 折笠 葉月（訪問看護ステーションなごみ プロジェクトリーダー）
- 大川 貴子（NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会）
（福島県立医科大学看護学部）
- 米倉 一磨（相馬広域こころのケアセンターなごみ）
- 栗田 思穂（相馬広域こころのケアセンターなごみ）

3. ミーティングの開催

本事業のミーティングは以下計6回、開催した。

第1回	令和6年 4月 25日 (木)	17:00～18:30
第2回	令和6年 7月 8日 (月)	16:30～18:00
第3回	令和6年 9月 12日 (木)	16:00～17:30
第4回	令和6年 11月 1日 (金)	16:00～17:30
第5回	令和7年 2月 13日 (木)	16:00～17:30
第6回	令和7年 3月 31日 (月)	16:30～18:00

Ⅱ. 令和6年度の実施内容

1. 地域住民への啓発活動の促進

1) アルコール関連予防啓発動画の作製

一般住民を対象とする予防啓発動画、『お酒を楽しく飲み続けるために』知っている？お酒のこと」が完成した。本動画は、①アルコール依存症とはどのような病気であるか、②健康を維持するための適正な飲酒量、③アルコールが分解されるまでに要する時間について解説している。今後、市町村の住民健診での活用および、内科等のクリニックでの待合室や、一般企業での社員研修での上映に向けて、交渉をしていきたい。

2) アルコール関連問題予防啓発活動

①商業施設におけるブースの設置およびリーフレット配布（写真1）

日時：令和7年3月14日（金）

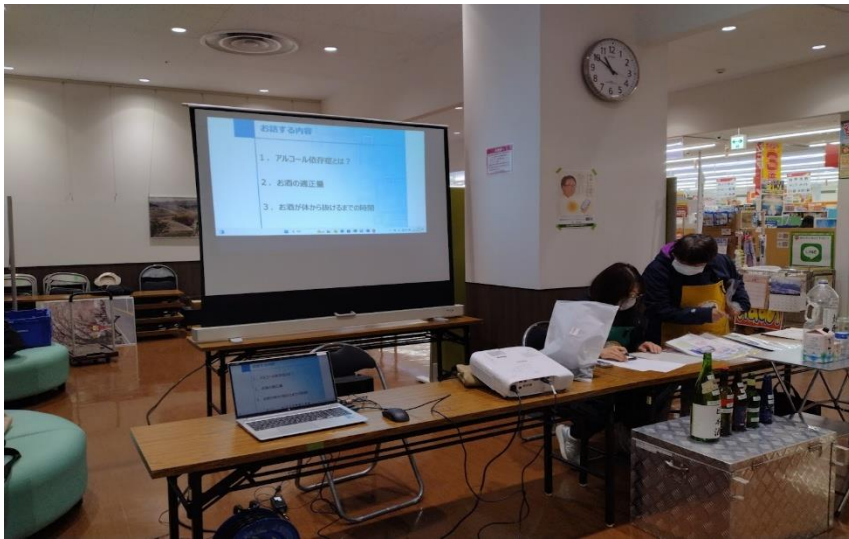
場所：さくらモールとみおか

対象：地域住民

内容：啓発用リーフレットの配布

ふくしま心のケアセンター浜通り南方部センターと合同で街頭キャンペーンを実施し、アルコール関連と睡眠関連問題のリーフレットを配布した。また、アルコール含有量が一目で分かるように明記した缶や瓶を展示した。

写真1 街頭キャンペーンの様子



②復興浪江十日市祭におけるリーフレット配布（2日間）

日時：令和6年11月23日（土）10：00～15：00

令和6年11月24日（日）10：00～15：00

場所：浪江町地域スポーツセンター

対象：浪江町十日市来場者

内容：啓発用リーフレットの配布

会場内の行政書士の相談コーナーに来た住民へ、「適正飲酒のススメ（酒造会社作成）」のリーフレットを配布した。

③新地ふるさと産業まつりにおける啓発活動

日時：令和6年11月9日（土）

場所：新地町役場前広場・農村環境改善センター

対象：来場者

子供には、高齢者疑似体験キットを使い体験してもらい、保護者には認知予防関連資料やアルコール関連問題などの資料を配布した。

3) 福島県立相馬高等学校での健康講話

日時：令和6年10月8日（火）

養護教諭から依頼あり相馬高等学校3年生156名を対象に、アルコール健康問題に関する講話を行った。アルコールが身体や精神に及ぼす影響について説明すると共に、メンタルヘルスに関する相談先としてなごみを紹介した。参加した生徒からは、「アルコールの危険性や、依存症の怖さについて学ぶことができた」「アルコール依存症は意思が弱いからなるのではなく、病気であることがわかった」「地域には相談機関があることを知った」といった感想が寄せられた。

2. 「男性のつどい」の活動強化

今年度は、前年度とは違い協同で何かを調理するという事よりも、焚火や地元のカフェに行きメンバー間の交流を増やした。その結果、同じ空間を共有しながら交流する事で、対話が自然に発生しメンバーの本心を引き出し、自主性の向上に繋がった。

また、飯舘村男性のつどいと浪江町男性のつどいは、アルコール関連問題がある参加者に加え、移住者と地元住民の交流の場となっている。次年度は、共同で開催している飯舘村訪問看護ステーション赤べこが主体で開催出来るよう、側面的支援を行う方向で調整している。

1) 南相馬市での活動内容

南相馬市（開催日時：第3水曜日10時30分～13時00分）

日付	参加者数	内容
4月17日	4名	花見（小高神社）、カフェ（小高アオスバシ）
5月15日	3名	国見山散策、国見山展望台でお茶会（写真2）
6月16日	4名	男性のつどい南相馬&チャレンジクラブ多世代交流会、たがらもんコンサート（村カフェ753）
7月17日	4名	飯舘村散策、ブルーベリー狩り（村カフェ753）
8月14日	2名	手打ちうどん、冷やしうどん（南相馬事務所）
9月18日	3名	村カフェ753でお茶会、きこり・あいの沢散策、工房マートル見学
10月16日	3名	浦尻貝塚縄文の丘公園散策、カフェ（小高アオスバシ）
11月20日	4名	紅葉狩り、たき火体験（飯舘村村内）

12月18日	3名	クリスマス会、クリスマスケーキ・サンドイッチ作り（南相馬事務所）
1月15日	3名	初詣（小高神社）、カフェ（小高アオスバシ）
2月19日	2名	簡単おやつ ホットサンド・白玉団子・スムージー作り（南相馬事務所）
3月19日	3名	次年度の活動計画についての話し合い（南相馬事務所）

写真2 南相馬市国見山の散策の様子（掲載許可あり）



2) 飯舘村での活動内容

飯舘村（開催日時：奇数月の第4金曜日 10時30分～13時00分）

日付	参加者数	内容
5月30日	5名	麻雀会
7月26日	11名	流しそうめん
9月27日	8名	ピラティス講座受講、ボッチャ体験
11月22日	11名	芋煮会
1月31日	3名	ボッチャ体験
3月28日	8名	歌声喫茶

3) 浪江町での活動内容

浪江町（開催日時：偶数月の第4木曜日 10時30分～13時00分）

日付	参加者数	内容
4月25日	4名	桜餅作り
6月27日	6名	手巻き寿司、簡単サラダ作り
8月22日	6名	二種類のカレー作り
10月31日	6名	芋煮会
12月26日	5名	クリスマス会
2月27日	6名	けんちんうどん作り

3. 保健・医療・福祉関係者の支援力の強化

本年度は、南相馬市の原町保健センターの保健師を対象に、地域対応力強化を目的とし、「地域の保健力を高めるための勉強会」を計 5 回行い延べ 31 名が参加した。アルコール関連問題がある住民は、地域の支援者が最も苦手意識を持ちやすい傾向にある。このため、なごみが関わり回復した例が掲載されている、なごみ 10 周年記念誌、特集 15 の物語 (<https://soso-cocoro.jp/pages/55/>) から、事例検討を行った。近年、保健師が自宅に訪問し継続する機会やノウハウを持っているベテラン保健師が年々減少傾向になり、このような事例検討会や同行訪問の機会を増やし、地域全体の対応力を向上させていくことが、支援者不足となっている被災地にとって重要なことであるといえる。

4. 地域連携の強化

1) 地域でのアルコール健康問題に関するネットワークづくり

本年度は、相馬郡医師会との連携をはかって、地元のクリニックに受診しているアルコール健康問題を抱えた患者と繋がれるようにするため、センターのアルコール関連問題の報告書や作成動画を活用したアプローチ方法について検討した。次年度は、動画をクリニックで活用してもらい内科医との連携を深めていく予定である。

2) 相馬うぐいす断酒会の開催支援

場所：相馬事務所、南相馬事務所

対象：断酒会に関心のある方

回数：計 32 回（相馬事務所 8 回、南相馬事務所 24 回）

延べ参加者数：83 名

本年度より、相馬うぐいす断酒会からの要望により、毎月第 1・第 3 火曜日の南相馬市事務所開催に加え、毎月第 2 火曜日に相馬事務所で定期開催することとなり、当センターから職員を派遣している。関係機関から紹介されるなどし、新規の参加や問い合わせがあった。

3) アルコール家族教室の支援

福島県相双保健福祉事務所アルコール家族教室における運営支援

場所：福島県環境放射線センター大会議室

相双保健福祉事務所が主催で実施しているアルコール家族教室は、アルコール関連問題を抱える当事者の家族を対象に CRAFT（コミュニティ強化法と家族トレーニング）のプログラムを活用して問題解決の方法を学び、家族同士の支え合いによる家族自身の回復を図ることを目的としている。

日付	参加者数	内容
6 月 18 日	4 名	家族交流会、フリートーク
8 月 20 日	6 名	CRAFT 学習、家族相談・交流
10 月 15 日	3 名	CRAFT 学習、家族相談・交流
12 月 17 日	4 名	CRAFT 学習、家族相談・交流
2 月 18 日	3 名	今年度の振り返り、ストレスチェック

5. 本事業に関する活動のまとめと広報活動

1) 教材動画「被災地の依存症者への関わりから読み解く～生きることを支えるヒント～」の協働制作（図3）

この教材は、こころの問題に悩み苦しむ方に、さらに良い関わりをしたいという支援者に向け、映画「生きて、生きて、生きろ。」を題材に具体的な支援場面に焦点をあてて再構成した。震災後、自死遺族となり、アルコール依存症となった方が回復へ向かっていくプロセスを克明に描きながら、関わり場面を振り返って解説し、支援者の意図が学べるように作成した。

写真3

DVD「被災地での依存症者への関わりから読み解く～生きることを支えるヒント～」



2) 県民健康リテラシー推進事業「飲酒」動画制作への協力

福島県では、“健康や医療に関する正しい情報を入手し理解して活用する”といった健康リテラシーに注力しており、その一環として動画制作の協力を行った。働き盛り世代の健康づくりとして、生活習慣病にならないための飲酒についての説明と、健康に配慮したお酒の飲み方について紹介している。

3) アルコール関連問題の支援終了者の調査

平成24年4月1日から令和6年3月31日までの期間、アルコール関連問題

の支援を終了者の集計を行い、支援終了者の特徴や支援回数と転帰の関連性などについての調査を行っている。次年度も調査を継続し、有効な支援に繋がる手がかりを見つけていく。

4) ふくしま心のケアセンター主催 復興のための市民公開講座「回復からのメッセージ」の開催協力

本年度は、南相馬市ゆめはっとで開催された、ふくしま心のケアセンター市民公開講座の開催協力をした。山口達也氏をシンポジストとして招き、依存症と気づいたターニングポイント、依存症の向き合い方についての講演をしてもらった。また、被災地で活動する相馬うぐいす断酒会の当事者や浜通り北方部センターの職員との座談会も行い、アルコールとの付き合い方について学ぶ機会となった。約700名に参加して頂き、参加者全員へ「とりあえず聞かせて、お酒の悩み」のアルコール依存症治療のための啓発資料を作成し、配布した。また、これらの開催にあたり、南相馬市や相馬郡医師会、全日本断酒連盟、相馬うぐいす断酒会等の関係機関との連携も強化できた。

Ⅲ. 今年度の振り返りと次年度に向けて

今年度を振り返ると、相馬高等学校からの健康講話依頼や男性の集い、断酒会の開催支援等を昨年から引き続き行ったほか、保健師との勉強会を開いたり、市民公開講座の開催協力を行ったりと昨年になかったより多くの地域住民への啓発活動の促進を行った。

保健師との勉強会では、事例検討会を行いなごみが持つアルコール関連問題がある住民へのアプローチやそのノウハウを共有する機会が設けられたことで、今後の地域の支援力向上に繋がると考えられる。次年度以降も保健師との協力支援や関わりの機会を持ち続けていきたい。

市民公開講座の開催に際して、市や医師会、相馬うぐいす断酒会（連盟）等の関係機関との連携が強化された。この事は今後の活動に大きな影響があると考えられ、次年度も引き続きアルコール関連問題の予防啓発活動に力を入れたい。

また、健康講話や市民公開講座の参加者からは「アルコール依存症は、本人の意志の問題ではなく、病気であることが分かった」旨の感想が多く見られた。当センターでは、多くのアルコール関連問題のある人を支援する中で常識として捉えていた内容であったが、まだまだ世間一般的には新事実として捉えられるものであったことが分かった。

さらに、一昨年から作製してきたアルコール関連予防啓発動画の2本目が完成した。今後は完成した2つの動画それぞれを、学校・市民向けの出前講座の際や医療機関（主に内科クリニック）・市町村の健康診断会場に於ける活用を目指し、より多くの地域住民へ疾患理解やアルコールとの向き合い方を広めていきたい。

このような事を踏まえ、次年度は動画の活用や保健師と連携を深めていきながら、アルコール関連問題の予防啓発に努めていきたい。加えて、現在行っているアルコール関連問題の支援終了者を対象とした調査の結果により、より効果的な支援方法を見出せる可能性とともに地域の支援者へ還元し地域全体の対応力強化に繋がる可能性もあるのではないかと考える。